

2012(平成 24)年度
事業計画

学校法人 千葉学園

千葉商科大学
千葉商科大学附属高等学校

I. はじめに

昨年は東日本大震災という未曾有の大災害により多くの尊い命が奪われ、またそれに伴い発生した原発事故により、我々の社会生活にいまなお大きな影響を与え続けている。そして、政治の閉塞感や、長引く経済の低迷、加速するグローバル化や少子高齢化、雇用環境の変化等、教育を取り巻く社会経済環境は大変厳しい状況にあり、学校法人の経営についても変革が求められている。

日本の私立大学約 600 校のうち、40%ほどが定員割れを起こしており、18 歳人口はしばらく 120 万人で推移するものの、平成 30(2018)年頃からは減少に転じることが明らかである。

この激しい大学間競争に勝ち残るために、本学は大学改革を断行し、これまで以上に社会的評価を確立させ魅力ある大学として生まれ変わる必要がある。そのために、一昨年から将来構想に向けた検討を進めているが、いよいよ今年度には具体的な事業計画を策定し、実現に向けた組織体制を整備するとともに、可能なものからスピード感を持って実行していく。

あわせて、従来からの戦略目標である ①より魅力的な教育を提供する ②より面倒見のよい大学 ③より強い事務体制と経営を構築する に基づき、入口(入試)、中身(教育)、出口(就職)への対応については、引き続き全学をあげて取り組んでいく。

付属高等学校においては、経済不況等の影響により、ますます公立志向が強まる中、今年度から週 6 日制に移行することで、これまで以上に生徒の進路に合わせたきめ細やかなカリキュラムと生徒指導を行うとともに、近隣地域の中学校や塾を頻繁に訪問することで関係者との信頼関係を築き、さらに社会的評価を確立する。

また、より質の高い教育と生徒指導と、地域社会からの期待に応えうる学校としての確固たる地位を築き上げるために、将来構想の検討を開始する。

法人の管理運営面では、前述の大学及び付属高等学校の将来構想の実現に向け、財務の中長期見通しを策定する。そして、安定した収入を確保し、戦略的かつ効率的な予算配分、組織や業務体制の見直し等によるコスト削減を実現し、一層の財務基盤の強化を図る。

このような状況を踏まえて 2012(平成 24)年度の事業計画として、次の諸事業に取り組むものとする。

Ⅱ. 事業の概要について

千葉商科大学

◇重点項目

1. 大学の将来構想事業計画策定と実行

平成 22 年 9 月に将来構想プロジェクトを設置して検討を開始し、本学の検討すべき課題を抽出し、6 つのプロジェクトに分かれて検討を進めてきた。平成 23 年度には、全専任教職員を対象とした意見交換会や学長主催による個別勉強会を 30 回以上開催し、将来構想に対する教職員の意見を収集してきた。

平成 24 年度にはこれらの意見を集約し、大学の 10 年後 20 年後を見据え、時代の変化と社会の要請に応え、魅力ある大学として発展し続けるための具体的な事業計画を策定し、可能なものからスピード感をもって実行する。

2. キャリア支援の充実強化

大学では、平成 22 年度に文部科学省から選定された「大学生の就業力育成支援事業」(就業力 GP)により導入した「CUC キャリア・カルテ」を有効活用し、1 年次からのきめ細やかなキャリア支援の充実を図る。

3、4 年生の就職支援については、500 社を超えたアライアンス企業を中心とした企業に対し、学内会社説明会と学内選考会のパッケージ化を提案し、これまで以上に学内の労働市場化を促進する取組みを行っていく。

また、キャリアカウンセラーを増員し、支援体制の充実を図る。

◇その他項目

1. 教育・研究

◇入学後の基礎学力向上のための取組み

◇優秀な学生をさらに伸ばしていくための取組み

◇資格取得の奨励

◇ゼミ教育の充実

◇FD活動の全学的推進

◇海外大学との交流促進(本学からの積極的な学生派遣)

◇大学院教育の高度化推進

◇専門職大学院の国際化推進

◇効率・効果的な研究費及び研究活動支援制度の整備

◇CUC 中堅中小企業基幹人材育成講座の継続と拡充

◇会計教育研究所の事業開始

◇経済研究所における中小企業研究・支援機構の事業開始

2. 学生支援

◇東日本大震災に係る経済的支援の継続実施（在学生及び本学受験生対象）

◇事務職員による研究基礎サポーター制度の推進

◇キャリアサポーター制度の推進

◇アライアンス企業の拡大と連携強化

◇奨学金制度の拡充

3. 地域、父母及び同窓会等との連携

◇地域活性化事業を通じた地域への貢献

◇市川市、江戸川区等各地域諸団体との連携（防災関係の連携強化）

◇キッズビジネスタウンをはじめとする効果的な地域社会向けイベントの実施

◇教育後援会の充実と活動の開始

◇保護者向け情報誌の発行

◇同窓会に対する大学情報の提供及び同窓会活動への協力

4. 広報活動

◇優秀な学生をさらに伸ばしていくための取組みや海外大学との交流促進など、
教育に係る新たな取組みを前面に出した広報活動の実施

◇一般入試受験者数の増加による大学のレベルアップと競争力向上を目指した高校
訪問活動の強化

◇新規プログラムとして入試問題解説や女子向けコンテンツ等、受験生のニーズに
マッチしたオープンキャンパスの拡充

◇平成 25 年度公式 web サイトリニューアルに向けた検討の開始

◇学内広報による学生への情報提供、教職員間の情報共有の充実

付属高等学校

◇重点項目

付属高等学校の将来構想検討

付属高等学校は、平成 16 年度から男女共学化へ転換し、その後生徒の進路に合わせたきめ細やかなカリキュラムと生徒指導、また近隣地域の中学校や塾を頻繁に訪問することによる関係者との信頼関係を築き上げてきた結果、志願者数と入学者数が増加してきた。しかしながら、近隣の就学人口の変化や経済不況等の影響によりますます公立志向が強まる

中、この先はさらに厳しい競争環境が見込まれている。この難局を乗り切るために、付属高等学校においても将来構想の検討を開始する。

◇その他項目

1. カリキュラムの見直し
2. 進路指導目標の数値化
3. 生徒指導の充実と徹底
4. 広報活動の充実
5. 教育効果の向上
6. 学力と検定試験合格率の向上
7. 危機管理システムの充実

管理運営

1. 財政の中長期見通しの策定
2. 資金運用収入の確保
3. 恒常的募金活動の推進
4. 各種助成金、補助金及び外部資金の積極的な獲得
5. 新人事制度(事務職員)の導入検討
6. モニタリング室による内部統制の継続的な点検・評価
7. 自己点検・評価への継続的対応
8. 危機管理体制の整備

施設・設備等

1. 6号館空調設備更新工事
2. 図書館空調設備更新工事(第3期工事)
3. 図書館エレベータ更新工事
4. 付属高校第1, 2校舎屋上防水更新工事
5. 本館内 LAN 配線更新工事